

<教育目標>



英知の風かおり 友愛の情ふかく 精励の志つねに

新しい^ま都会^ちに (中野中だより)

平成 29 年 9 月 29 日発行
No. 8 校長 矢口 仁

「オン ユア マーク」 - 支える人たち - 校長 矢口 仁

彼岸花 先祖の香りただよいて 友岡 咲子

9月26日(火)に、中野区の総合体育大会陸上競技大会が、駒沢公園陸上競技場で行われました。選手たちは、好天の中、自己のベストを目指して力いっぱい走ったり、跳んだり、投げたり…と躍動していました。その大会を支えていたのは、審判の東京陸上競技連盟の方、パトロールの保護者の方々、各学校の先生方でした。



「オン ユア マーク (位置について)」……トラック競技のスタートの瞬間です。緊張が走るこの一瞬、この仕事に精進しているスターターが、桐生選手の100m日本新記録に大きな貢献をしました。福岡渉さん(46歳)、福井陸上競技協会の主任スターターを務める方です。

9月の日本学生対校陸上選手権は、福井市で行われました。福岡さんには以前から、「福井で公認の9秒台が出てほしい。」という強い思いがありました。9日の100m決勝の日も、その思いをもち続け、スタートの瞬間を考え抜いていたそうです。

100mの記録は、風速2.0m以下でないと公認されません。前日の予選、準決勝の11レースは風が強く、全て追い風参考記録でした。さらに、10分前に行われた女子100m決勝も追風2.3mで追い風参考記録となるような天候でした。

福岡さんは、50m付近にある吹き流しを見て、その日の風に一定のリズムがあることを見つけたそうです。そのため、吹き流しを見て、二度目の強風の時に「オン ユア マーク」をコールしました。そして、「セット」の後、号砲を鳴らしました。その瞬間、計算通り、風は弱まったといいます。

風速はスタートから10秒間の平均風速で決まります。レース後、速報タイム9.99秒の横に、「+1.8m」が表示され、さらにタイムが9.98秒で確定しました。

翌日のテレビ報道で、記録が確定した瞬間に、スターターの3人が喜びのあまり、抱き合っている映像が流れていました。福岡さんは、今、3年後の東京オリンピック・パラリンピックのスターター研修に参加して、さらに技術を磨いています。

記録を出し、脚光を浴びるのは努力を続けている選手たちです。しかし、その陰で競技を支える様々な人たちがいることを私たちは忘れてはなりません。選手たちがインタビューで「支えてくれた全ての人に感謝します。」という言葉を見ると、私は、とてもさわやかな気持ちになり、その選手をさらに応援したくなります。